

**第 17 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
情報提供・相談支援部会 議事要旨**

日時：2021 年 11 月 26 日（金）14:00-16:15

開催形式：Web 会議システム（Webex）を用いたオンライン開催

1. 開会のあいさつ（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 議長／国立がん研究センター 理事長 中釜 斉）

がんの情報を正しく伝える上で、病院の中での相談支援の体制の重要性は高まってきている。

さまざまな診療技術の革新に伴って、十分な知識にたどり着けないという状況もある。相談支援の支援する側と支援を受ける側で十分な意思疎通がとれているのか、つまりは十分な相談支援に到達できているのか、そのような問題も含めながら、本部会の中での経験・知識に基づいて様々な提案をしていくことが求められている。

また、第 4 期基本計画策定に向けて取り組んでいく時期に来ている。情報提供・相談支援分野においてどういう課題があるのか、その課題克服に向けてどのようなことができるのか、本部会の中で議論できればと思う。情報を作成して提供すること、それがいかに十分に届くか、実装科学的視点での研究が求められている。ぜひ皆様の経験を共有しながら、より良い体制構築にご協力いただければと思う。

本日の出席者について

（情報提供・相談支援部会事務局／国立がん研究センターがん対策研究所 宮本）
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会参加施設の情報提供・相談支援の責任者またはそれに準ずる方、実務者他の方々、約 120 名程度の方にご参加いただいている。

オブザーバー紹介（がん対策研究所 宮本）

サッポロビール株式会社 人事部 プランニング・ディレクター 村本高史 様
東京女子医科大学病院脳神経外科家族の会「にじいろ電車」代表 三上葉子 様

2. 本日の概要

（情報提供・相談支援部会長／国立がん研究センターがん対策研究所 高山）

資料 3 スライド 1～4

本日は厚生労働省より第 3 期基本計画の中間評価に向けた整理についてお話しいただく。また、第 4 期基本計画や次期整備指針に関連するアンケート結果をご紹介し、ディスカッションができればと考えている。

その他、がんと診断されて間もない方への情報資材についての報告、地域相談支援フォーラム in 山形や大阪府で実施された「がん相談支援センター利用に関するアンケート」の結果報告をいただく予定である。

3. 情報提供・相談支援分野の中間評価に向けた整理について

(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 溝上 悠介)

資料 3 スライド 6～21

現在、第 3 期がん対策推進基本計画の中間評価報告書公表に向けて、中間評価に関する議論を進めている段階であること、また、2022 年度以降は第 4 期基本計画策定のための議論を行っていく予定であることなどが報告された。

相談支援に関する中間評価指標として、「家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合」「がん相談支援センター/相談支援センターについて知っているがん患者・家族の割合」などがあり、2018 年度患者体験調査等の結果を用いて評価していること、過去（2014 年度）の調査と比較した場合、数値は上昇傾向にあるが、依然としてがん相談支援センターの認知率は十分とは言えないことなどが報告された。

また、がん診療提供体制のあり方に関する検討会の下に「がん診療連携拠点病院等の指定要件に関する WG」、「小児がん拠点病院等の指定要件に関する WG」、「がんゲノム医療中核拠点病院等の指定要件に関する WG」が設置され、来年 8 月頃の次期整備指針発出に向けて検討される予定であるとの説明があった。

4. 第 4 期がん対策推進基本計画および次期整備指針策定のための提案に向けたアンケート結果報告 ならびにそれに基づく今後の情報提供・相談支援部会の活動について アンケート結果報告（がん対策研究所 小郷）

資料 3 スライド 22～39

第 4 期の基本計画や次期整備指針への提案を部会として取りまとめていくためのアンケートについて、結果概要の報告があった。患者家族の困りごとのうち、解決されていない問題として多くの意見があったのは社会資源の限界に関することであった。また、がん相談支援センターの課題としては、多岐にわたる相談への対応が困難、周知広報活動が十分に行えてないなどの意見が多く挙げられていた。これらの課題に対処するため、基本計画に盛り込んでほしい事項としては、がん相談支援センターの人員配置規定、早期からがん相談支援センター利用を促進する体制の整備、経済的支援や社会保障制度、在宅療養を支える地域資源の充実を要望する声が多かったことなどが報告された。

-ディスカッション-

(奈良大学医学部附属病院 長谷川委員)

アンケート結果は、コロナの影響も含めて考えていかなければならないと思う

(神奈川県立がんセンター 金森委員)

長谷川先生のおっしゃる通り、コロナの影響も考慮しなければならない。加えて時代の変化というところで、妊孕性・AYA 関係を強調してもよいのではないか。

(宮崎大学医学部附属病院 鈴木委員)

ワクチンの相談が増えるという気がしていたが、アンケートではそこまで増えていないようである。国民がワクチンについて関心をもっている時期でもあり、そのあたりを取り上げるにはよい機会となるかもしれない。

(国立がん研究センター 中釜理事長)

基本計画に盛り込んでほしい内容として「業務のバックアップ体制」「システムの充実」という記載があった。具体的にはどのような内容があがっているか。

(がん対策研究所 小郷)

資料 4 の 19 ページに具体例をいくつか記載している。

バックアップ体制については、「病院全体としての取り組みを強化してほしい」「ピアサポーターの導入を必須としてほしい」等の意見が挙がっている。

システムの充実については、「行政主導による自宅療養を支える地域資源の整備」「介護保険が受けられない若年患者に対するシステム構築」等の意見が挙がっていた。

(島根大学医学部附属病院 榎原委員)

コロナによりさまざまな体制がスムーズに進まなくなったというのは感じている。相談も対面で受けづらくなり、サロンも開催できない中で、全国の相談支援センターの好事例を共有できるような体制がより強化できるとよい。

(和歌山大学医学部附属病院 雑賀委員)

相談は何とか対応しているが、ピアサポートの連携は最低限になってしまっている。患者さんとしては、オンラインの活用が難しい状況がやはりあるようである。

(秋田大学医学部附属病院 秋山委員)

介護保険が受けられない患者さんへのシステム構築については、相談支援と行政の間で話し合いの機会を設けたりもした。こういった取り組みを広く進めていければよい

のではないか。

（がん対策研究所 高山）

妊孕性温存についても、国で実施しているものと、都道府県で実施しているものがあると聞いている。都道府県独自で実施されているものについて情報共有をいただきたい。

（新潟県立がんセンター 櫻井委員）

新潟県として妊孕性温存治療の助成金事業を始めたという案内がつい先日あったばかり。卵子凍結、精子凍結、43歳未満を対象とするという国の取り組みにそった内容となっているようである。

（神奈川県立がんセンター 金森委員）

行政、生殖医療施設、がん治療施設間での会議体を設けている。ネットワークを作るというのが一つの課題であり KanaOf-Net というネットワークを作っている。生殖医療施設、行政、がん治療施設で情報共有をしていくというところまでは進んでいる状況である。

（がん対策研究所 高山）

都道府県ごとにアンケート結果をお戻しさせていただくほか、全体としても課題、対策についての議論を進めていければと考えている。

先ほど厚労省溝上様より、整備指針策定に向けた検討が進む予定というお話もあった。本部会としてもWGを設け、数回の議論を経て提言書をまとめられればと考えている。WGの設置についてご承認いただけるか。

（採決）

拍手・挙手機能を用いて、WGを設置することについて承認いただいた。

5. がんと診断されて間もない人への情報資材作成について

（がん対策研究所 高山）

資料3 スライド40～49

第15回情報提供・相談支援部会にて協力依頼のあった「がんと診断されて間もない人への情報資材（冊子）」がほぼ完成の段階にあること、2022年3月に冊子発注システムにて購入ができるようになることが報告された。

また、厚労科研研究班協力のもと、冊子の活用効果に関する調査（医師を対象とした調査とがん相談支援センターを対象とした調査の2つ）が予定されており、2022年2月頃に拠点病院がん相談支援センターのメーリングリストにて調査協力をお願いをさせていただくので、ぜひご協力いただきたいとの案内があった。

-ディスカッション-

(がん対策研究所 若尾)

地域拠点病院でもこの調査研究に協力してもらうことは可能か。可能であれば各都道府県内でも十分に周知いただきたい。

(宮崎大学医学部附属病院 鈴木委員)

研究参加すると少し早めに冊子をいただけるとのことだったが、いつ頃いただけるか。図書館でのイベントを予定しており、早くいただけるようであればそこで配布したいと思っている。

(がん対策研究所 高山)

まだ十分調整ができていないが、2月後半～3月初めごろを予定している。

(がん対策研究所 若尾)

今回の冊子は病院内で診断後の方向けに配っていただくことを想定している。一般の方向けのチラシは別途作成しており、こちらも年度内に完成予定である。

(九州がんセンター 森田委員)

多方面からの意見を取り入れて、非常に分かりやすい冊子となっていると思う。最初に告知をしたときに、できるだけ医者が患者さんに直接手渡せたらと思う。ぜひこの冊子を活用いただくとともに、研究にもご参加いただいてフィードバックをいただきたい。

(滋賀県立総合病院 山内委員)

細かいところまで患者さんに分かりやすく見ていただけるものができたと思う。できるだけたくさんのがんと診断された患者さんに渡っていくと良いと思う。

(兵庫県立がんセンター 伊藤委員)

WGの中で「相談室があなたの力になるとはっきり言いきった方が良い」という議論があったことが印象的である。多くの患者さんに活用していただきたい。

(琉球大学病院 増田委員)

とてもいい冊子になっている。今後は、確実に患者さんに行き届くように、またなるべく主治医から患者さんに手渡ししていただけるようなシステムを各県で構築していくことが課題である。

(がん研究会有明病院 花出委員)

当院では医師が配る体制を作るのは至難の業。親会等でアナウンスし医師を動かしていただけるようなことは予定されているか。

(がん対策研究所 若尾)

次の親会は6月を予定しており、冊子注文開始の方が先行してしまう。

これから整備指針に向けた議論をWGで行い、親会にもメール審議という形で諮るため、メール審議の場で冊子配布体制に関する依頼をすることは可能と思われる。

6. 大阪府「がん相談支援センターご利用にあたってのアンケート」調査実施について (大阪国際がんセンター がん相談支援センター 池山 晴人)

資料3 スライド50～66

県内で実施した利用者アンケートについて、以下の報告があった。

がん相談支援センターの評価について主観的な印象に留まっていたため、大阪府がん診療連携協議会会長より提案があり、利用者を対象としたアンケートの実施を決定した。倫理審査やコロナ禍の影響により、3ヶ月延期する等の状況があったものの、2020年8月から10月にかけて実施することができた。集計対象回答数は477。各二次医療圏のデータを提供し、圏域ごとに分析し、大阪府の相談支援センター部会および、大阪府がん診療連携協議会にて報告を行った。

「相談員は真摯に対応してくれ、相談支援センターは相談しやすい雰囲気であった」という回答が多かった反面、がん相談支援センターの役割である「相談したことで医師や看護師との関係が良い方向に変わった」、「安心な治療や療養生活ができるようになった」については否定的な意見も多く、重く受け止めなければならない。非常に重要だったのは自由回答で、アクセスや場所の分かりにくさ、プライバシーの確保や相談支援センターの整備状況について相談員以上に利用者は敏感に感じていることが分かった。

実施方法については精査が必要であり、倫理審査のサポートや人的資源の不足等、課題も多いが、貴重なアウトカム調査であることから、継続的な実施に向けて長期的な展望を持っておく必要がある。

-質疑応答・ディスカッション

(がん対策研究所 若尾)

以下の3点についてお伺いしたい。

- ①大阪府をどのように動かしたか、そのポイントについて
- ②対象者と回収方法について
- ③報告書本体は公開されているか

(大阪国際がんセンター 池山委員)

①大阪府がん診療連携協議会から大阪府に話が来て、その後こちらで関わることになった。役割分担については、時期的なこともあり、大阪府の担当者がコロナ対応に取られてしまうこともあった。

②対象者は対面相談の相談者のみで、回答は一度きり、回答したアンケートは大阪府がん対策主管課へ送付してもらうことにした。利用者が大阪府宛の方が安心するのではないかということで、そのような回収方法とした。

③各施設長には報告書を送付している。部会ホームページ等で不特定多数の方が供覧できる形にはしていない。今後、府民の方にご覧頂ける形に整え、結果としてフィードバックしていく予定である。

(大阪府で資料公開がなされた後、当部会ページからも報告書を公開予定。)

7. 地域相談支援フォーラム in 山形（オンライン開催）の報告・質疑

(山形県立中央病院 患者サポートセンター 稲村 みどり)

資料 3 スライド 67～78

令和 3 年 10 月 16 日（土）に開催された東北地区地域相談支援フォーラム～在宅につなぐ相談員の役割～について報告があった。昨年 5 月開催予定であったが、コロナのため中止となっていた。コロナ禍の中で在宅の需要が増えていることなども踏まえ、テーマは変えず開催することとなった。東北 6 県を中心に 119 名の方が参加した。

開催にあたっては、開催形式の検討、使用する WEB 会議システムの検討、また特に操作については何度も繰り返し行い、操作方法がわからない場合にはみんなで共有し試行錯誤してきたことなどが報告された。

開催後アンケートの結果では「移動時間・時間の制約・経済的負担が少なく参加しやすい」「コミュニケーションが取れず物足りない」「発言のタイミングが難しい」「開催出来たことがまずは良かった」「多くの参加者がありながら発言者が限られるのは残念。他県の相談員ともっと意見交換したかった」「参加者も当日前に操作等の確認が必要」などがあったこと、2022 年度は岩手県での開催が予定されていることなどが報告された。

(山形県立中央病院/山形県がん診療連携協議会がん患者相談室部会長 鈴木 克典)

県・病院・個人含めて機器を集めて開催した。オンラインを整備するには資金が必要である。

今年はオンラインでサロン等様々進んでいる。コロナが終わっても続いていくだろうと考えている。スキル、機器等の整備には部会・行政の理解が必要である。

-質疑応答

(がん対策研究所 高山)

山形県の方はフォーラムに入っているか。

(山形県立中央病院 稲村委員)

スライドを県の方で作成し、発表は相談員が行った。話し合いの際は県の方からも意見を頂いている。

(がん対策研究所 若尾)

情報提供だが、オンライン研修の主権者向けマニュアルを作成予定である。利用出来るようになれば、ぜひご活用頂きたい。

8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

(がん対策研究所 高橋)

資料 3 スライド 79～95

2022年度の相談員研修スケジュールに関する説明の中で報告、以下の案内や依頼があった。

- ・オンライン研修開催時の環境について、トラブルが相次いでおり、同じ施設から複数名参加の場合には、必ず別室からの参加をお願いしたい。
- ・来年度よりヘッドセットマイクの使用を必須とするため、準備等ご協力をお願いしたい。
- ・基礎研修(3)については、定員を増やす予定であり、ファシリテーター協力を積極的にお願したい。
- ・「情報から始まるがん相談支援」研修の講師派遣事業を今後3年間で実施予定であり、今年度中に募集要項を掲載する。

また、各県で開催している相談員研修について、下記の依頼があった。

- ・III群研修の開催報告を忘れずをお願いしたい。
- ・定員に余裕がある場合などは、他の都道府県からの受講者受入れを積極的に検討いただきたい。
- ・2022年3～4月頃に、各県の2022年度研修予定についてのアンケートを実施させていただく。がん情報サービスに掲載するため、アンケート回答のご協力をお願いしたい。

9. その他

1) オブザーバーよりコメント

サッポロビール株式会社 人事部プランニング・ディレクター村本 高史様

本日オブザーバー参加して感じたことを3点お話しさせていただく。

1 情報提供相談支援の持続可能性について

アンケート結果の部分で業務が増えた施設もあるとの報告があった。コロナ以前より忙しかったところ、さらに業務量が増えたのではないかと思われる。患者としては、相談対応の質が高ければ高いほど良いと思う部分もあるが、今後議論される際は質の高い提供体制かどうかに加え、それが持続可能かどうかについても考えてほしい。

2 患者向け情報提供資材について

良い資材が出来たが、作って終わり、配布して終わりではなく、その後患者と話す材料にして頂きたい。

3 次期整備指針や基本計画への提案を取りまとめるワーキンググループについて

昨年11月の患者体験調査の提言書取りまとめに携わった。今後のWGで議論される際はその提言書も参照し、第4期基本計画や整備指針に反映して頂きたい。

東京女子医科大学病院脳神経外科家族の会「にじいろ電車」代表 三上 葉子様

皆様がきめ細かい議論をしていただけていることに感謝申し上げます。2点ほどお話しさせていただきたい。

1 患者向け資材について

主治医から資材を渡してもらえると、患者としては相談支援センターに行きやすくなる。また、QRコードで冊子がダウンロードでき、がん相談支援センターのご案内も含むような名刺サイズの資材があると、お守りとして持ち運びやすくよいのではと思う。

2 第4期基本計画や整備指針に盛り込んでほしいことについて

アンケート結果にも出ていたが、オンライン化については何らかの形で盛り込んでいただきたい。小児でもオンラインでのやりとりが活発になっていて、コロナが落ち着いてからも継続していきたい。教育の視点から、安定したwifi環境の整備についてもお願いしたい。様々な視点からオンライン化についての発言が出ると良いと思う。

2) 連絡事項（がん対策研究所 宮本）

次回、第18回情報提供・相談支援部会は、2022年5月26日（木）13:00～オンライン開催を予定している。本日は時間の関係上、閉会の挨拶は割愛する。